

本校には「問題解決型授業」より「習得型授業」が向いているのでは？

これまで行ってきた「問題解決型授業」

- ① 課題（問題）把握
「……だろうか？」
・子どもの問いから生まれた課題
・興味関心をもって取り組める課題
 - ② 解決の見通しをもつ
 - ③ 自力解決（自分の考え）
 - ④ 友だちと考えを交流
 - ⑤ まとめ
 - ⑥ 練習問題での確かめ（おもに算数）
 - ⑦ 振り返り
- ペア・グループの活用
- ・自力解決→比較検討→全体で共有
 - ・本時のねらいに沿ったまとめ
 - ・高学年は自分の言葉で。
 - ・分かったこと、感想等を書く。発表する。
 - ・ペアで語り合い振り返りをする。

教えて考えさせる「習得型授業」

「教えて考えさせる授業」構築の3レベル

段階レベル	方針レベル	教材・教示・課題レベル
教える		
(予習)	授業の概略と疑問点を明らかに	・通読してわからないところに付箋を貼る ・まとめをつくる／簡単な例題を解く
教師の説明	教材・教具・説明の工夫	・教科書の活用（音読／図表の説明） ・具体物やアニメーションによる提示 ・モデルによる演示 ・ポイント、コツなどの押さえ
	対話的な説明	・代表児童との対話 ・答えだけでなく、その理由を確認 ・挙手による、賛成者・反対者の確認
考えさせる		
理解確認	疑問点の明確化	・教科書やノートに付箋を貼っておく
	生徒自身の説明	・ペアやグループでお互いに説明
	教えあい活動	・わかったという児童による教示
理解深化	誤りそうな問題	・経験上、児童の誤解が多い問題 ・間違い発見課題
	応用・発展的な問題	・より一般的な法則への拡張 ・児童による問題づくり ・個々の知識・技能を活用した課題
	試行錯誤による技能の獲得	・実技教科でのコツの体得 ・グループでの相互評価やアドバイス
自己評価	理解状態の表現	・「わかったこと」「わからないこと」

教えて考えさせる授業のイメージ <校長の解釈です…ホントはもっと深いと思います>

①教師の説明 10分



- ・「分からせたい」「できるようにしたい」ことを教科書を使って説明してしまう。(教具等も活用)
- ・板書は ① の次にいきなり ⑤ もあり得る。

- ・子どもの理解度を把握（挙手，対話）しながら、教えていく。

②理解確認 10分



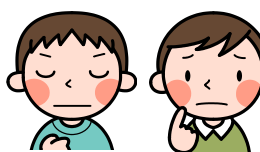
- ・教えてもらったことを、ペアで説明し合う。
- ・教師は、みんなができていないか確認して歩き，理解不足の子には個別指導を行う。質問にも教師が答えていく。(自分から質問できるようにする)

③理解深化 20分



- 「誤解しがちな問題」「習ったことへの応用・発展問題」「試行錯誤による技能問題」などを提示し，協働学習で解決を図らせる。
- ・ ② ③ ④ のイメージ
 - ※「間違い探し」と間違えている理由を説明させる活動なども考えられる。

④自己評価 5分



- ⑤の活動
- ・「何が分かったのか。」
 - ・「何が分からなかったのか。」を書かせる。
 - ・自分の理解を文章化することで学習内容の整理を促す。

市川伸一教授が提唱する「教えて考えさせる授業」はおもしろそうなので、みんなで研修してみたい